

# 当事者研究を用いた精神障害者当事者による 障害者のキャリア形成の現状について

- 細田 拓成  
(同志社大学大学院 総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコース)
- 井手上 修司  
(放送大学 教養学部 生活と福祉コース)
- その他 協力者1名

# 1 背景と目的

1. 一億総活躍社会の一環で、働き方改革が進められている。
2. 障害者雇用は、依然として雇用の量に重きが置かれている。
3. 精神障害者にとっては、「障害者雇用だったとしても、障害になるまでのキャリアを活かして仕事がしたい」。

✓ つまるところ、「御苦労ごとを抱えている人間」であったとしても、きちんと人的資源として扱われたい。

そこで、「当事者自身で障害者雇用におけるキャリア形成の把握」が必要。

## 2-1 方法

### 1. 下記の理由から当事者研究を採用

1. アンケートだと設問の設定が難しい。
2. インタビューだと聞き手の質問力や、信頼関係が構築できていないと深く聞き出しにくい。
3. インタビュアーと協力者の間に上下関係が発生する。

### 2. デメリット

1. 協力者が精神的に不安定で進めることが難しい。
2. 相互インタビューを行う際に、互いに会話ができ、やり取りをまとめ上げる一定の水準が必要。
3. 各協力者間に信頼関係構築が必要不可欠。

## 2-2 内容

1. 当事者研究ワークシートを参考に実施
  1. 基本として、「単なる情報提供者としての立場を超えて自己の体験や問題について共同で研究する」を軸に、できるだけ客観的に互いに聞き取り合うようにした。
  2. ワークショップ形式でテーマに沿って関連する要素を互いに聞き取り合い、テーマに関する情報を共に洗い出す。
  3. 「自分についての語り」が期待できる。

## 2-3 協力者の設定

### 1. 当事者における協力者の設定と理由

#### 1. 最初のキャリアは正社員

- ✓ 長期的視点でキャリアパスについて考えることを求められる

#### 2. 現時点までに3社以上の転職をしていること

- ✓ 障害を前提としたキャリアについて何らかの行動を期待

#### 3. 障害者雇用で3年以上同じ会社に在籍していること

- ✓ 継続して安定した就業環境である目安

これらを踏まえ、筆者を含めた計3名集まった

## 2-3 協力者のプロフィール

表1 協力者のプロフィール

氏名	年齢	性別	障害	学歴	これまでの 主な業務
協力者A	50代	男性	双極性障害	大卒文系	営業
協力者B	30代	男性	神経発達症	大卒理系	技術
協力者C	40代	女性	神経発達症	大卒理系	事務

表2 障害者雇用されるまでのプロフィール

氏名	学歴	主な業務	転職回数	勤務年数			延べ休業年数
				平均	最長	最短	
協力者A	大卒文系	営業	3	6.23	11.75	1.00	5.92
協力者B	大卒理系	技術	5	1.65	3.00	0.25	0.75
協力者C	大卒理系	医療	1	5.33	10.00	1.75	0.25

表3 障害者雇用されてからのキャリア

氏名	主な職種	転職回数	直近の就業年数	延べ休業年数	雇用形態
協力者A	清掃	0	4.33	0.00	パート
協力者B	技術	0	5.42	0.00	契約社員
協力者C	事務	1	7.42	0.00	正社員

協力者の中に筆者も  
入ってます

# 3 現段階で得られた内容と考察

## 1. 高度専門的なキャリアは時として足かせとなる

- ✓ 専門的であればあるほど、「実務面でミスマッチ」があれば、専門性を取得する課程が進路変更の際に足かせとなる。

## 2. キャリア形成や活用は職場・特に上司次第

- ✓ トップの考えよりも、上司の方針が大きく影響する。

## 3. 安心して働くことができる職場であれば長期就労している

- ✓ 逆に安心できない職場は短期就労であった。

## 4. 当事者研究を用いたキャリア形成の把握について

- ✓ アンケートやインタビューに比べキャリア形成の背景まで得られたのか、情報の洗い出しを進める。

## 4 今後の方向性

1. 現状、手が付けられていない協力者のキャリア形成の背景の分析を進めるために、ワークショップ中に交わされた言葉の分析を進める。
2. 同様の調査をアンケートとインタビューで行った場合の違いについて調査検討を進める。
3. 「本人の語り」を拾うことができる当事者研究を活用したキャリア形成を把握する手法について、模索を進める。

## 5 参考文献

1. 「ニッポン一億総活躍プラン」平成28年6月2日閣議決定p3  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ichiokusoukatsuyaku/pdf/plan3.pdf> 2020年8月30日確認
2. 働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律平成30年7月6日公布
3. 綾屋紗月：当事者研究をはじめよう 熊谷晋一郎（編）臨床心理学増刊第11号金剛出版「当事者研究を体験しよう！」p88-105（2019）
4. 石原孝二：「当事者研究の研究」（医学書院）p066
5. 平成30年度障害者雇用実態調査結果 p18厚生労働省。

## 6 連絡先

今回は、ポスター原稿の前で様々な理由により、文字にできなかった内容について議論したいと考えておりました。今後、なんらかの機会ですべて改めてポスター発表したいと思っております。

質問などあれば、下記になんなりとよろしくごお願い申し上げます。

〒602-0898

京都府京都市上京区烏丸通上立売上る相国寺門前町647-20

同志社大学大学院 総合政策科学研究科

細田拓成 (ほそだひろあき)

e-mail: ctkc0108@mail3.doshisha.ac.jp

ctkc0108@gmail.com